



ゆうことみゆき

なるほどアイヌ文化エッセイ

# ソッコ de ソッコ



アイヌ文化のことをもっともっと話したい!  
本田優子と村木美幸の二人が、  
その魅力を交代で執筆する  
ソッコ(=お便り)形式のエッセイです。

Vol.77

## 今月のテーマ アユシニ チブ (ハリギリの丸木舟)



本田優子  
(札幌大学教授)

日高地方にこんなお話を残されています。  
『私はハリギリの丸木舟とカツラの舟が人間のように立ち上がってけんかしていた。その夜、夢の中にカツラの舟の女神が現れ、軽くて扱いやすいカツラの舟ばかりが使われるのをねたんだハリギリの舟が、毎晩自分をいじめるのだと告げた。私はハリギリの舟の本体はもちろん、残っていた切り株や根もすべて燃やした。その煙は海にたなびいていった。それを知った父から

舟とカツラの丸木舟を持っていた。ある夜、物音がするの川へ行くと、ハリギリの舟とカツラの舟が人間のように立ち上がってけんかしていた。その夜、夢の中にカツラの舟の女神が現れ、軽くて扱いやすいカツラの舟ばかりが使われるのをねたんだハリギリの舟が、毎晩自分をいじめるのだと告げた。私はハリギリの舟の本体はもちろん、残っていた切り株や根もすべて燃やした。その煙は海にたなびいていった。それを知った父から



イラスト/ 莊田悠人

丸六年間は漁に出るなど言われたにも関わらず、私は六年目に海に出てしまった。すると恐ろしい大蛇が浮かび上がり私を追いかけた。神々の助けを得て命だけは助かったものの、体も顔も腫れあがつて溶け崩れ、私は化け物のような姿になってしまった。』  
なんて怖ろしい！ハリギリはセンノキとも呼ばれ、アユシニ(トゲが生えている木)という名前通り、枝には鋭いトゲが密生。そのイメージも加わってか、決してハリギリで丸木舟を作ってはいけないうと、周囲のアイヌの人たちは言っていた。  
ところがある日、新聞を読んでビックリ。道東で発掘された六艘の丸木舟の材



質が全部ハリギリとのこと。え？いいの？不思議に思ってた千歳市周辺で発掘された丸木舟について調べたら、これまたハリギリ製。さらに道内各地に現存している丸木舟にもハリギリ製のものがたくさん含まれていることがわかったの。

で、今度は物語の方を調べたところ、一九三六年以降、約三十年間隔で三人のおばあさんたちの語りが記録されました。なんと最初の物語では、カツラの舟の女神は「せつかく舟として作ったのだから、私と同じ程度にそちらも使ってあげたらよかったの」と言ってる！なのにそれがいつの間にか、ハリギリ自体がタブーとなったことがわかりました。

しばらくして、カツラの原木入手に困っていたというアイヌのおじさんから電話があり、「本当にハリギリの舟、作っているのいいの？」。以来あちこちでハリギリの舟が復元されるようになったとのこと。メタタシ！

次回のテーマは「川のくらし」村木美幸(アイヌ民族文化財団理事)が担当します。



- 本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ講師を務める。
- 村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
- 莊田悠人(しょうだゆうと):平取町二風谷生まれ。漫画家兼イラストレーター。幼い頃のアイヌ文化が原風景。東京在住。